

**\*ブラッシャー天体写真儀の乾板画像取り込みーその5: BOX-011~020ー**

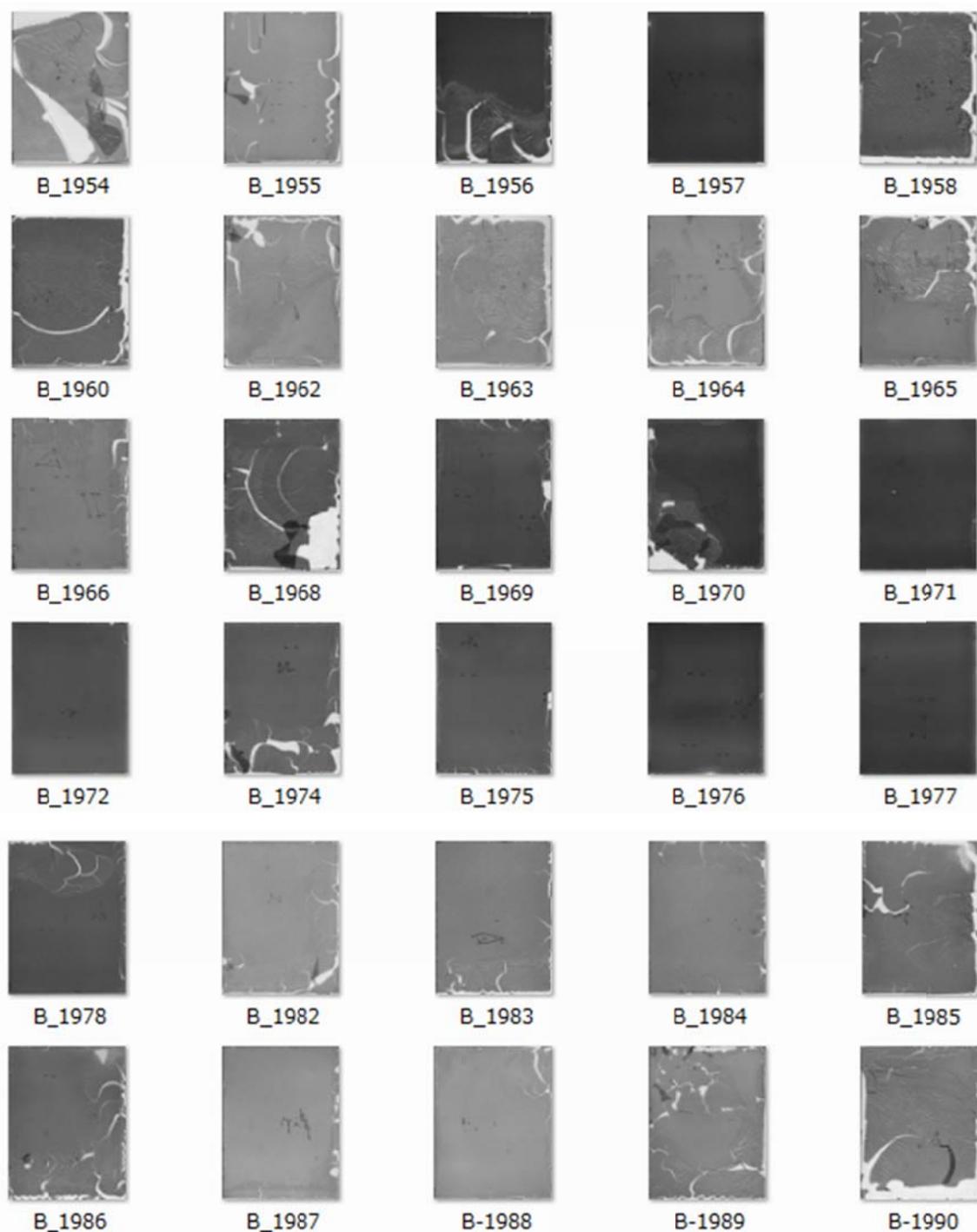
筆者はブラッシャー天体写真儀の天体写真乾板が整理され、箱に入った状態のリスト作りを行い、アーカイブ室新聞第482号~第485号に「ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板についてーその1ー、その2、その3、その4」と報告して来た。そして、アーカイブ室新聞第511号(2011年7月6日)、512号(2011年7月7日)、513号(2011年7月8日)に「ブラッシャー天体写真儀の乾板画像取り込みーその1ー(526~1127)」、「同一ーその2ー(1027~1157)」、「同一ーその3ー(1158~1193)」、「同一ーその4ー」という記事を書き、10箱分について報告した。今回はこのシリーズの第5弾である。ブラッシャー天体写真儀の天体写真乾板は141個の箱に整理され保管されている。それらの天体写真乾板をデジタルデータとして取り込む作業を筆者が引き受けている。そこで今回から10箱分ずつ報告したいと思う。今回はBOX-011~020の10箱分について報告する。

1箱に基本的には30枚入っているので、1回に300枚の乾板のサムネイルを示す。データはグレースケールで600dpiで取り込んでいる。1箱1ページで表示する。

ブラッシャー天体写真儀による天体写真乾板は、現在では図書室の貴重書庫と同じ部屋で非常に条件のいい場所に保管されている。この状態は元国立天文台職員であった中村士氏が1990年頃整理され、国立天文台南棟(元総合情報棟)が建設され図書室がその建物に移され、貴重書庫、乾板保管室が出来た際に移され現在に至っている。

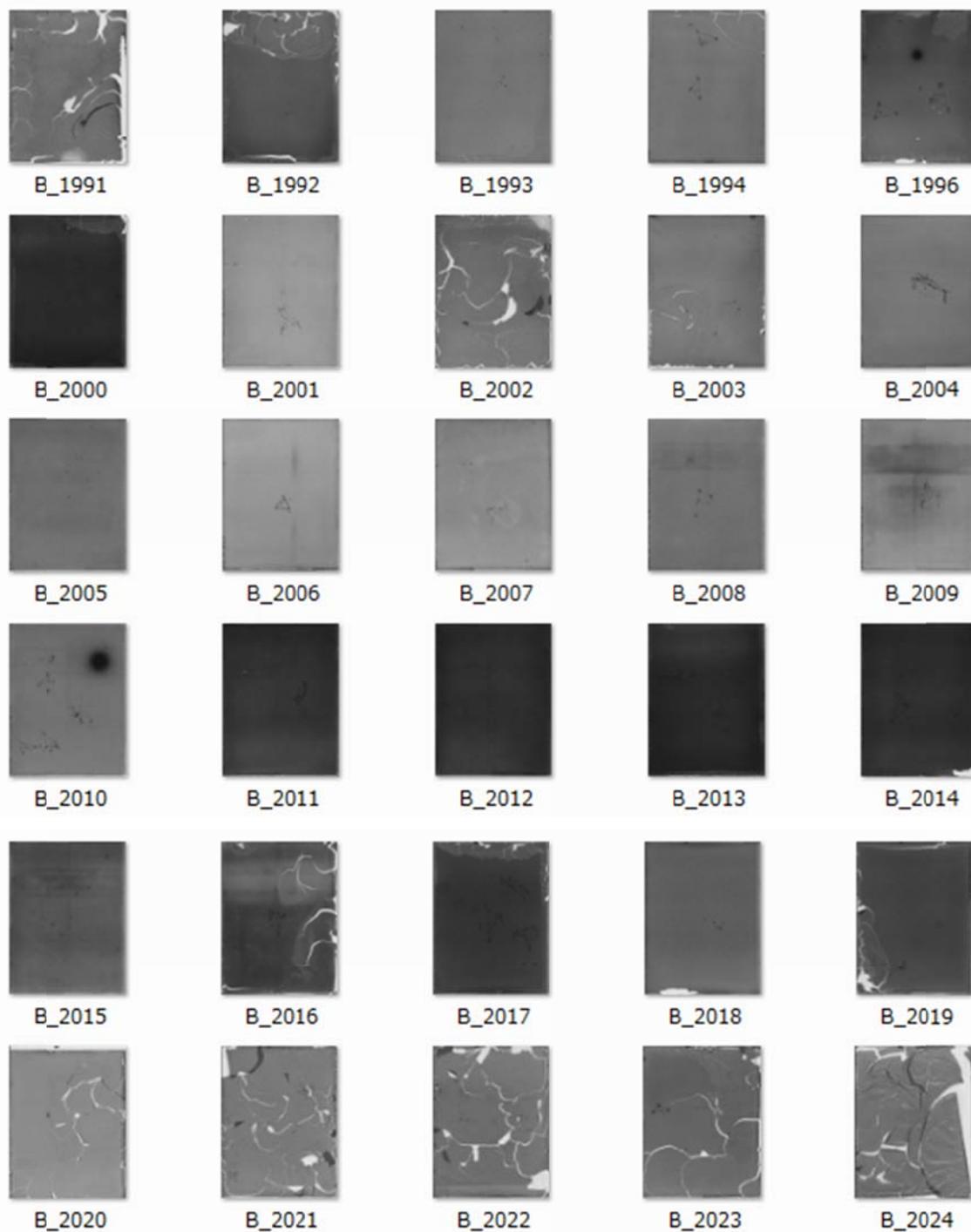
中村士氏が整理された時点で、すでにかかなりの乾板の膜面が剥れており、膜面の剥れた乾板は中性紙で包む際、元の硫酸紙(トレーシングペーパー)で包んだまま中性紙で包んで保管箱に収められている。しかし驚くほど膜面の傷みがひどく、完全に剥れたものも少なくない。

BOX-011



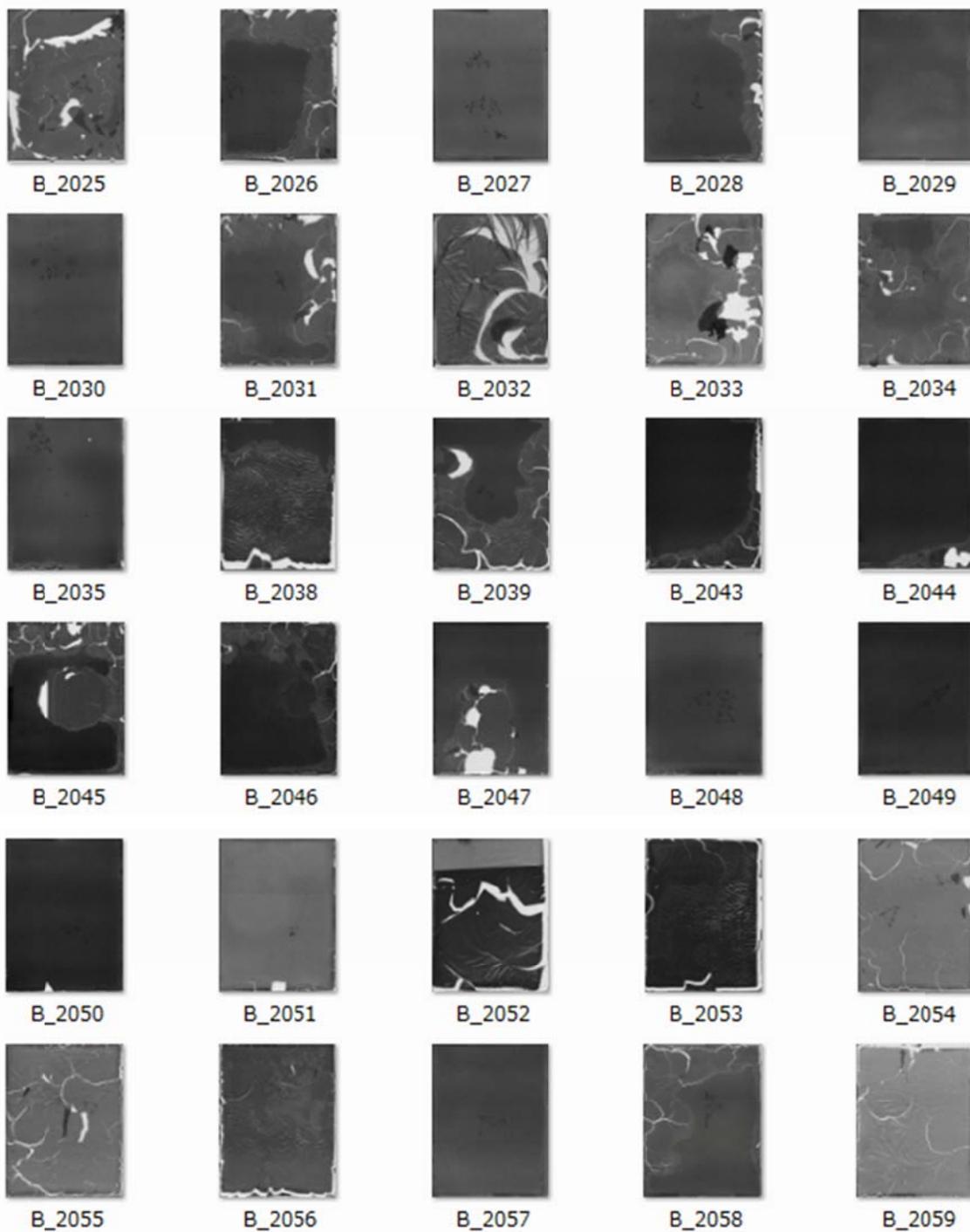
この箱の乾板では、ほぼ完全なものは5枚程度であり、完全に剥れたものが15枚、半分程度はがれたものが4枚、乾板の縁がはがれたものが6枚ほどある。

BOX-012



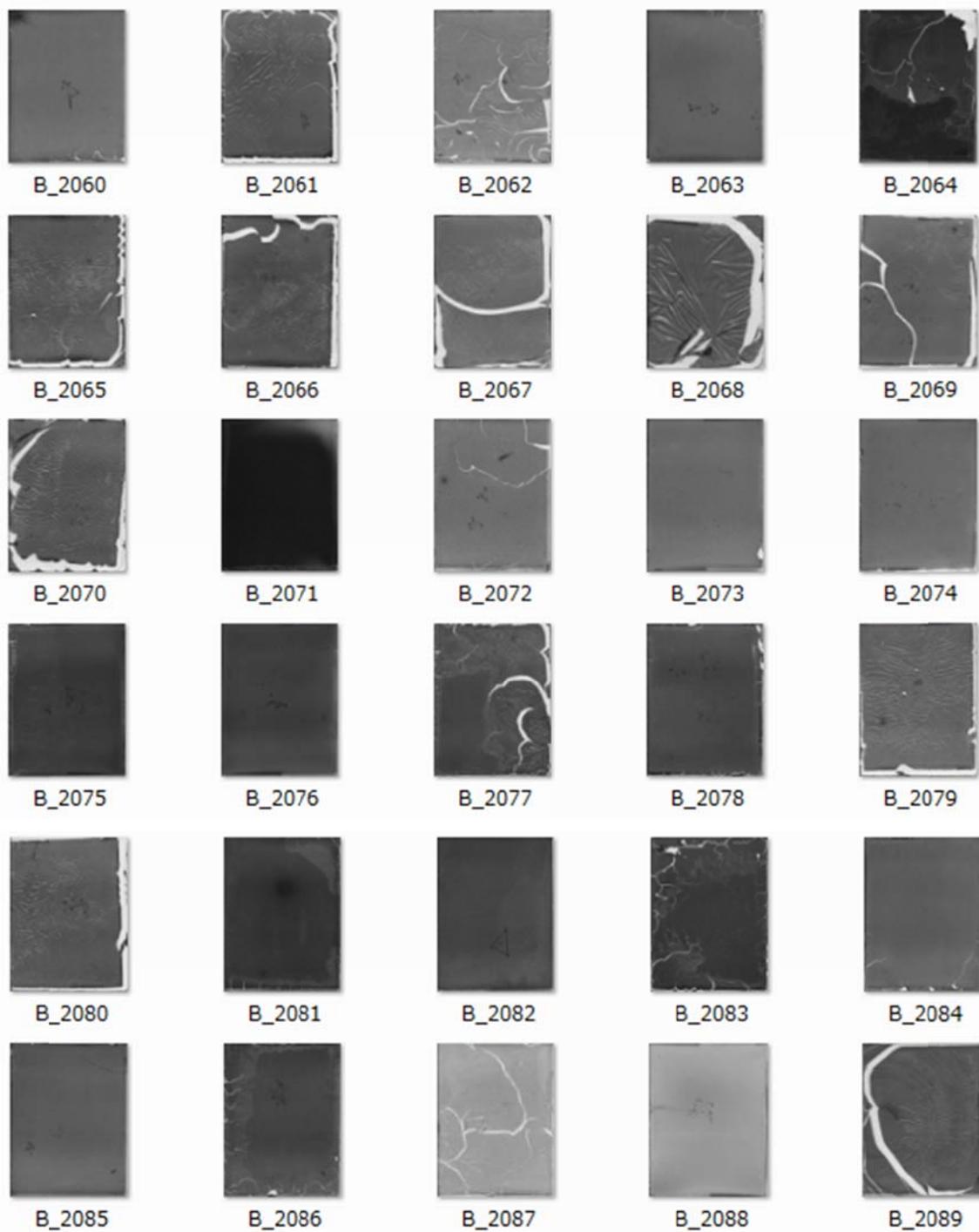
この箱では、ほぼ完全なものが12枚、完全に剥れたものが8枚、半分程度はがれたものが3枚、縁がはがれたものが7枚ほど見られる。

BOX-013



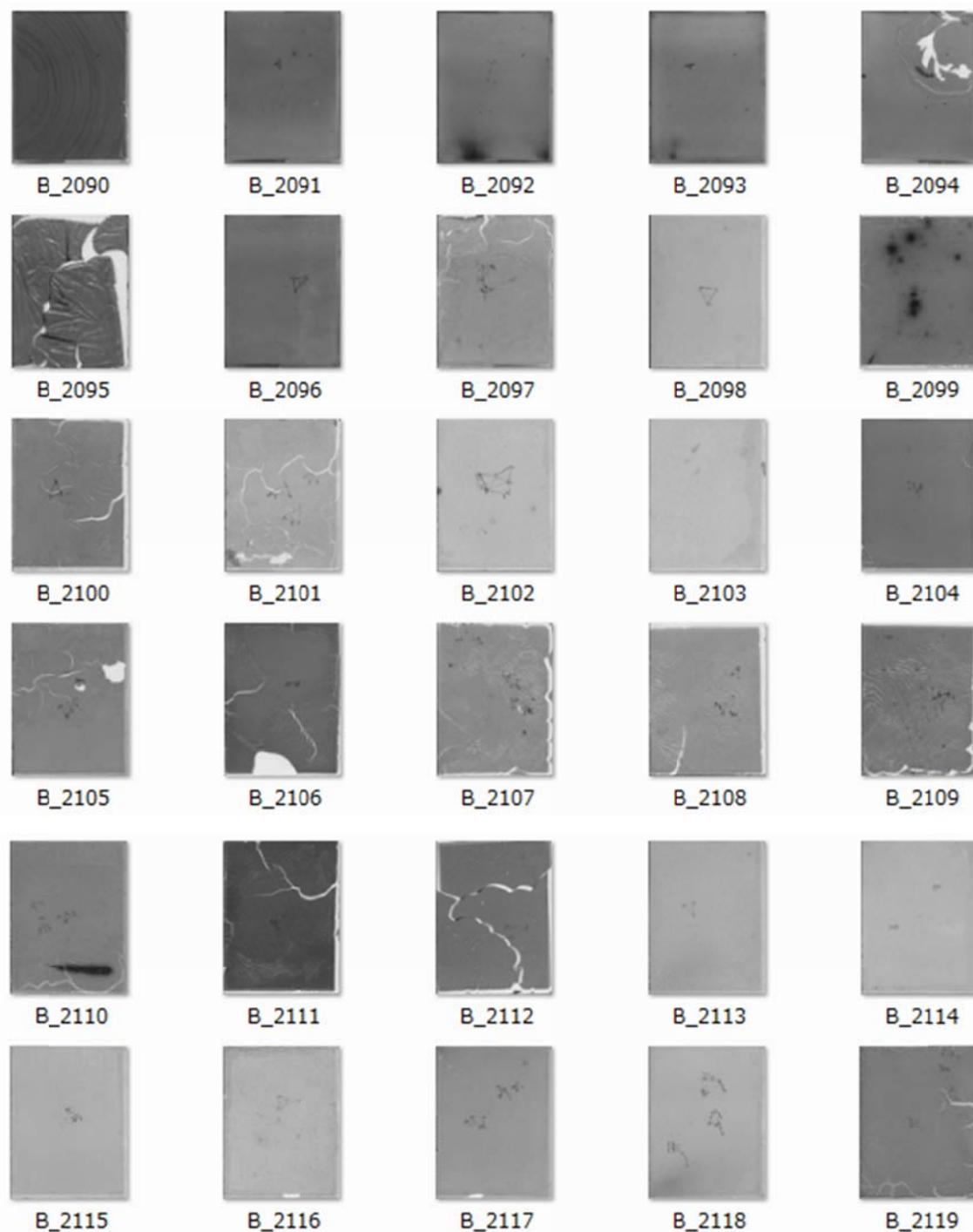
この箱ではほぼ完全なものが6枚、完全に膜面がはがれたものが12枚、半分ほどはがれたものが5枚、縁などがはがれたものが7枚程度見られる。

BOX-014



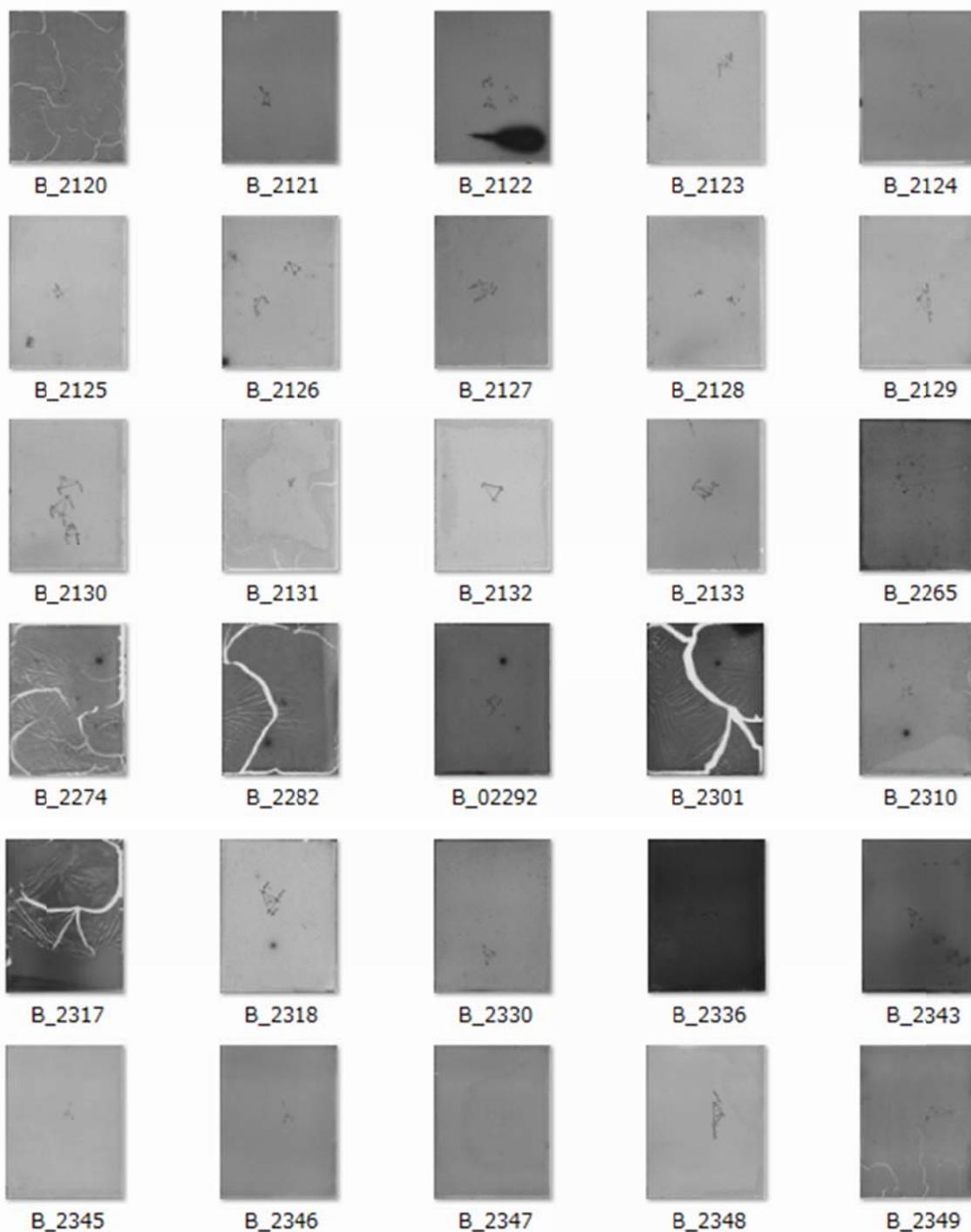
この箱では、ほぼ完全なものが5枚、完全に剥れたものが9枚、半分ほど剥れたものが5枚、縁など部分的なはがれが11枚ほど見られる。

BOX-015



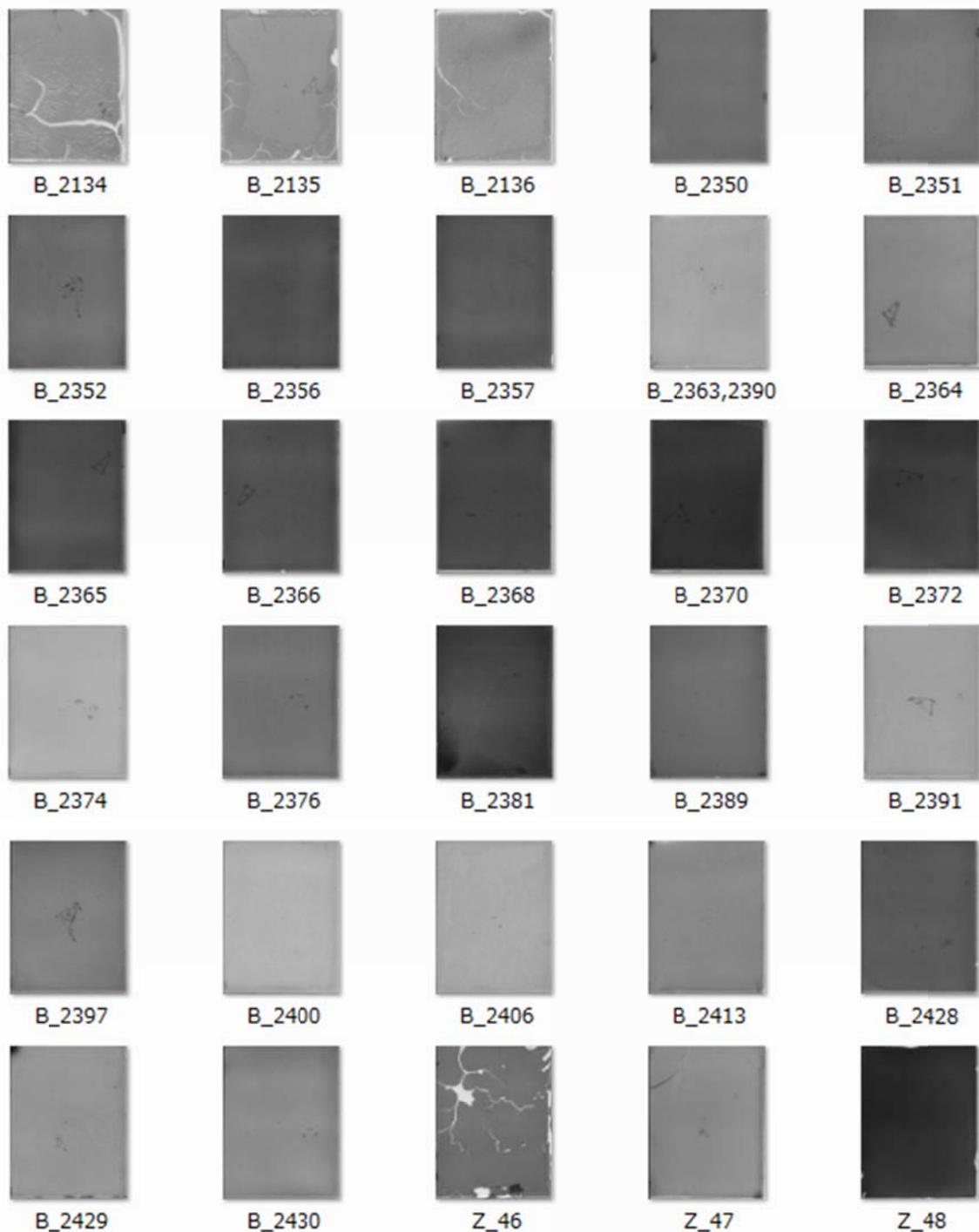
この箱では、ほぼ完全なものが 13 枚、完全に剥れたものが 11 枚、半分ほど剥れたものが 3 枚、縁など部分的な剥れが 3 枚見られる。

BOX-016



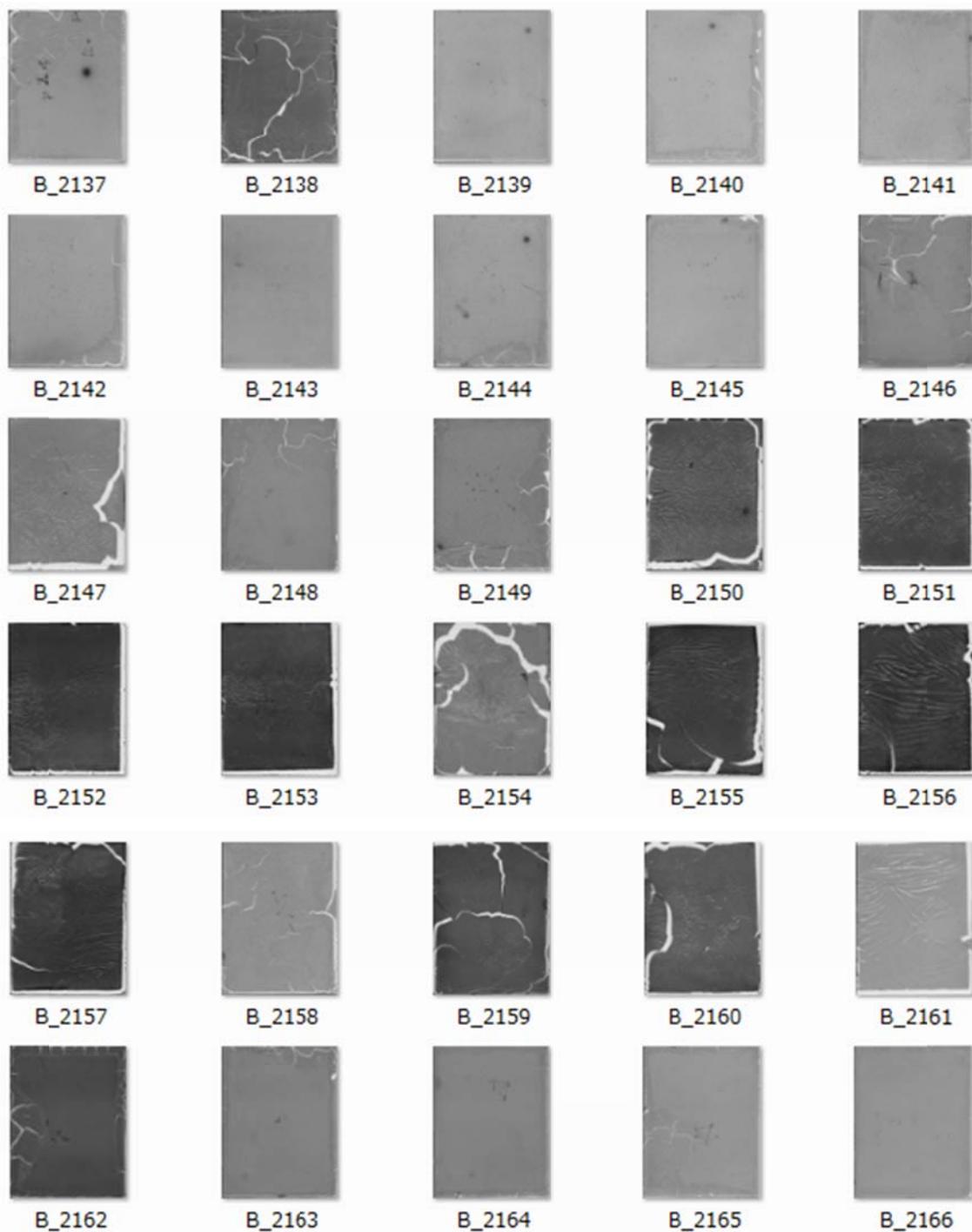
この箱では、ほぼ完全なものが22枚、完全に剥れたものが6枚、その他が2枚。

BOX-017



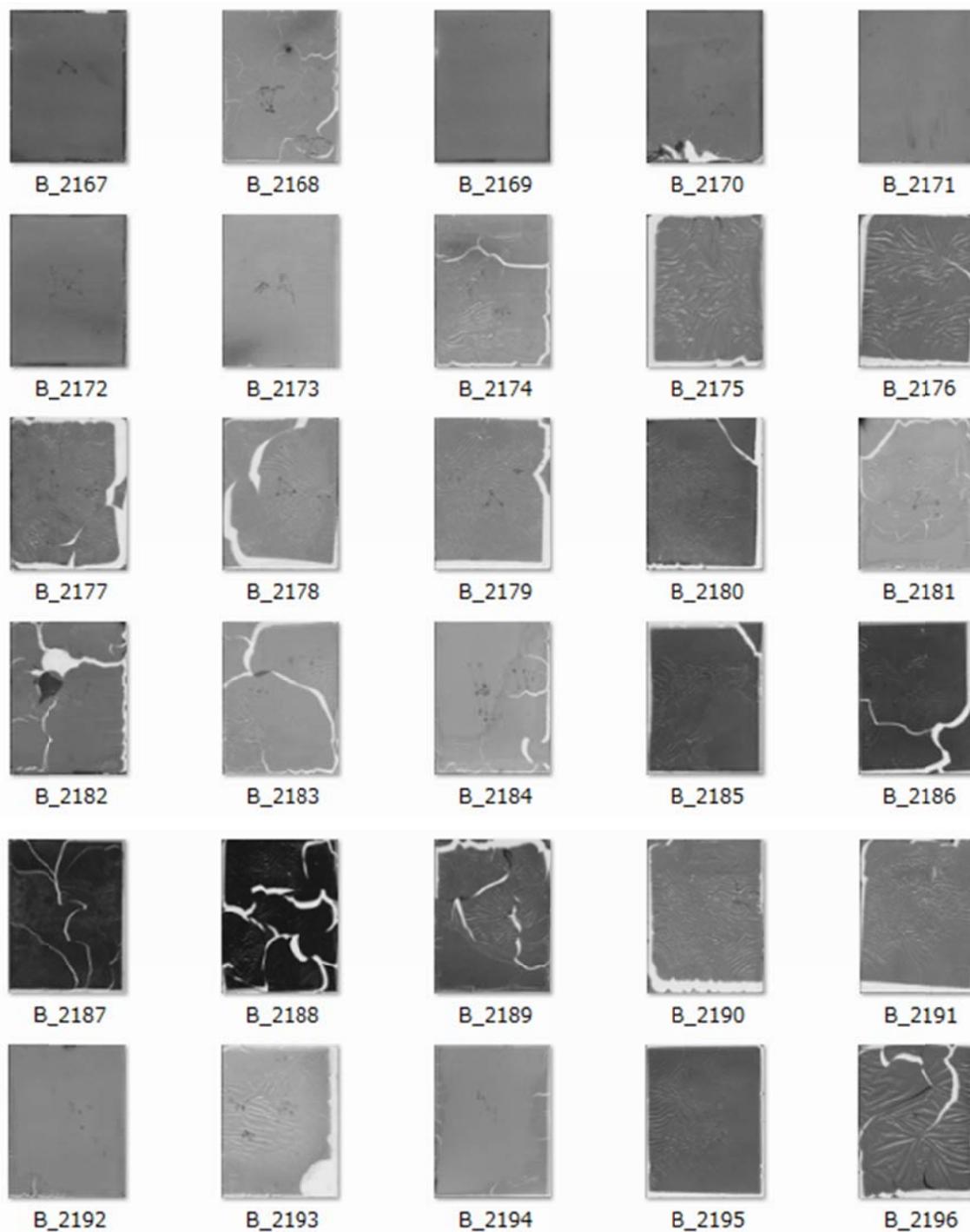
この箱では、ほぼ完全なものが24枚、完全に剥れたものが2枚、その他部分的な剥れが4枚ほど見られる。

BOX-018



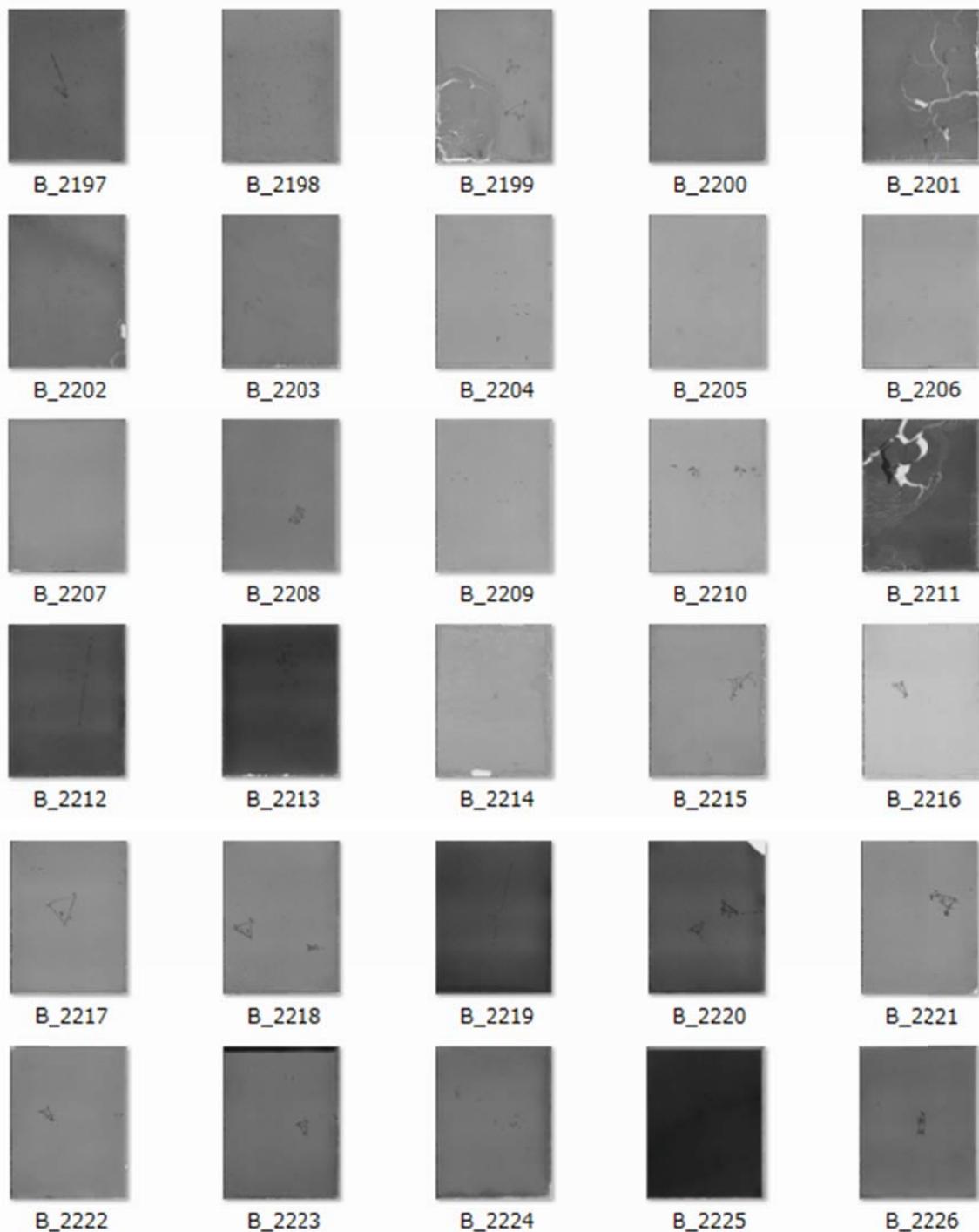
この箱ではほぼ完全なものが8枚、完全に剥れているものが11枚、その他半分ほど剥れているものが5枚、その他縁などがはがれているものが6枚である。

BOX-019



この箱では完全なものが4枚、ほぼ完全に剥れたものが18枚、部分的に剥れたものが6枚、その他が2枚程度である。

BOX-020



この箱では、ほぼ完全なものが24枚、完全に剥れたものが2枚、その他が4枚である。

これらアーカイブ室新聞の記事にお気づきのことがあれば、編集者中桐にご連絡いただければ幸いです。中桐のメールアドレスは、[arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp](mailto:arcnaoj@pub.mtk.nao.ac.jp)